

令和6年度支援計画 振り返り

そら

令和 7 年 4 月 1 日

そらの活動に慣れていく。

活動目標 できる活動を増やしていき、社会経験を少しずつ増やしていく。

活動を通して、興味・関心を増やしていく。

受け入れ施設の都合や感染症の流行等により、支援内容をやむを得ず変更する場合があります。

5領域	ねらい		まとめ
健康・生活	健康状態の維持・改善	健康状態の把握	職員が手洗いやうがいの仕方の手本を示したり習慣化するよう支援することで、外出先から戻って来た時に行うことが定着してきた。玄関で靴を脱ぎ、靴棚に靴を置くよう毎回伝えたことで、職員の声かけをしなくてもできるようになった。公園などに散歩に出かけたり、体育館活動やダンス活動に参加してきたことで体力が付き、イベント時に歩ける距離が伸びた。イベントの昼食で様々な食べ物に挑戦し、食べれる種類が増えた。
		健康の増進	
	生活リズムや生活習慣の形成	リハビリテーションの実施	
		基本的な生活スキルの獲得	
運動・感覚	姿勢と運動・動作の向上	姿勢と運動・動作の基本的技能の向上	様々な道を散歩して歩行練習をしたり、正しい姿勢で椅子に座る練習をしたりしたことで体幹が鍛えられた。体育館活動に参加することでバランス感覚を養い、運動をする持続力が定着してきた。手指を使った細かな製作活動をしたり、シートベルト着用の練習をしたりしたことで手指の細かな動きができるようになった。
		姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	
	姿勢と運動・動作の補助的手段の活用	身体の移動能力の向上	
		保有する感覚の活用	
認知・行動	認知の発達と行動の習得	感覚や認知の活用	玩具の棚の配置やトイレの場所、手洗いやうがい等の順序を伝えて練習したことで行動の習得や空間の認知につながった。物の配置を工夫したことで準備や片付けが身に付くようになった。玩具やおやつ等で比較することで大きさや数が分かるようになった。職員の名前を呼ぶことができるようになった。外出時に並んで歩くことが出来るようになった。
		知覚から行動への認知過程の発達	
	空間・時間、数等の概念形成の習得	認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	
		数量、大小、色等の習得	
言語・コミュニケーション	言語の形成と活用	言語の形成と活用	毎回場面に合った挨拶を練習したことで挨拶が身に付いてきた。要求や思いを伝える練習をしたことでコミュニケーション能力の向上を図ったことで少しずつ発信ができるようになった。指さし、ハンドサイン等で少しずつ思いを伝えられるようになった。文字が記載されている玩具で遊ぶことで文字を読めるようになった。言葉を使う遊びをしたりしたことで言葉が分かるようになってきた。
		受容言語と表出言語の支援	
	言語の受容及び表出	人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	
		指差し、身振り、サイン等の活用	
コミュニケーションの基礎的能力の向上	読み書き能力の向上のための支援		
	コミュニケーション手段の選択と活用		
人間関係・社会性	他者との関わり(人間関係)の形成	コミュニケーション機器の活用	他の人と一緒に外出活動や食事をする、おもちゃを共有して遊んだことで他利用者に興味を持って関わることができた。仲間集めゲーム等の集団活動を行ったことで協力して他者と一緒に遊ぶことを理解できるようになってきた。図書館等の公共施設へ外出、事業所でのおやつ作りで共同作業を行ったことで集団での参加することの楽しさを感じる事ができた。
		アタッチメント(愛着行動)の形成	
	自己理解と行動の調整	模倣行動の支援	
		感覚・運動遊びから象徴遊びへの支援	
仲間づくりと集団への参加	一人遊びから協同遊びへの支援		
	自己の理解とコントロールのための支援		
		集団への参加への支援	

1 上記以外にも個別支援計画に沿った支援を適宜行っております。

2 印はイベントを想定した支援内容になります。